

公立大学法人岐阜県立看護大学 平成25年度小項目ごとの検証・確認における論点整理

1 法人の自己評価を変える項目

自己評価の区分		判断の目安
IV	年度計画を上回っている	計画の実施状況が100%超
III	おおむね年度計画どおり実施している	計画の実施状況が90%超100%以下
II	年度計画を下回っている	計画の実施状況が60%超90%以下
I	年度計画を大幅に下回っている	計画の実施状況が60%以下

通し 番号	年度計画	業務の実績・法人の自己評価	論 点	検 証 (案)
66	事務職員については、評価制度に沿って、人事評価を試行するとともに、その結果を検証し、修正等を行う。 教員については、評価制度の素案を作成する。	教員評価制度の構築のため、他大学の教員評価の情報を収集するとともに、平成27年度試行に向けた具体的なスケジュールを作成した。また、事務職員に対する人事評価を実施した。	III 「III」→「II」 年度計画では教員の評価制度の素案を作成するとしているが、情報収集、スケジュールの作成にとどまっている。 「III」のまま 素案は作成していないが、情報収集、具体的なスケジュールの作成を行っており十分素案と呼べる段階まで教員評価制度の検討行っている。	年度計画では教員の評価制度の素案を作成するとしているが、情報収集、スケジュールの作成にとどまっている。 II
72	イ 安否確認を実施し、災害時に備えた対処体制の充実を図る。	イ 全学生及び教職員を対象とした安否確認訓練(試行)を2回実施した。 ・第1回 平成26年1月28日(火) 20:00 ・第2回 平成26年2月18日(火) 13:21 【ヒアリングによる補足事項】 有効な回答が得られなかった者には改めてメールや掲示板等を利用して、メールアドレスの登録を依頼した。 (試行として行っているため、厳密に回答の有無を確認してのフォローは行っていない。)	III 「III」→「II」 有効な安否確認の返答がなかった者から今後しっかりと返答が得られる状態にしないと安否確認訓練の意味がない。計画には試行であるとは記載がされていない。 「III」のまま 安否確認訓練を実施しどれくらいの者から有効な返答が得られるかという現状把握という点では意味がある。	有効な安否確認の返答がなかった者から今後しっかりと返答が得られる状態にしないと安否確認訓練の意味がない。 II

通し 番号	年 度 計 画	業務の実績・法人の自己評価	論 点	検 証 (案)
87	情報公開を充実させるために、ホームページのリニューアルについて検討する。	ワーキンググループで構成案を作成し、各委員会等情報管理部署に意見照会を行った上で、結果を構成案に反映させた。	<p>「Ⅲ」→「Ⅳ」 ホームページのリニューアルについて検討したうえで、構成案を作成し、委員会等の意見照会まで行っており年度計画より進んでいると認められる。</p> <p>「Ⅲ」のまま ここでいう検討には実施の有無の検討に加え、構成等の内容の検討まで含まれる。</p>	<p>ここでいう検討には実施の有無の検討に加え、構成等の内容の検討まで含まれる。</p>

2 コメントを付す項目

通し 番号	年度計画	業務の実績・法人の自己評価	論 点	検 証 ・ 確 認 (案)
03	(エ) 看護専門職として主体的な自己を高めるための教養科目の充実を目指し検討内容を踏まえ実施する。	(エ) 看護職者として主体的な自己を高めるための教養科目の充実をはかる目的で教養科目(コミュニケーション論、ジェンダー論)の配当セメスターを4年次から3年次に変更し、学びを4年次の卒業研究の実習に生かせるようにした。	充実期待 看護の専門知識を身につけることも大切だが、教養科目で幅広い知識を身につけ、人間性を深めることも重要である。	看護職者としての主体的な自己を高めるため、教養科目の更なる充実を期待する。
05	(ア) 博士前期課程の看護学特別研究の一年次の4領域に共通する指導内容を明文化する。 (イ) 博士前期課程の看護学特別研究の二・三年次の指導内容と水準を確認するファカルティ・ディベロップメントを実施する。 (ウ) 修士論文審査委員会における論文審査基準の確認方法について、教員間で検討する。	(ア) 1年次における看護学特別研究の指導として、領域を超えた協働授業を7月及び11月に継続実施した。また、協働授業に対する教員の実施評価に加えて、学生の授業評価を追加実施し、その結果を基にFD研修会において、1年次における指導内容を明らかにした。 (イ) 博士前期課程の特別研究指導に関するファカルティ・ディベロップメントを9、10、1月の3回実施した。 (ウ) 修士論文審査委員会における論文審査方法を確立した。 【ヒアリングによる補足事項】 論文審査方法については、審査日程の調整方法、論文審査の進め方の手順、最終試験および審査結果の報告等の審査委員会の運営について明確にした。	充実期待 学生修士論文審査方法の確立により、学生の身につけるべき知識・能力の明確化、審査の透明性の確保を図ることは重要である。	論文審査方法の確立によって修士課程受験者数に変動があるか検証されたい。

通し 番号	年 度 計 画	業務の実績・法人の自己評価	論 点	検 証 ・ 確 認 (案)									
08	(エ) 専門看護師育成コースの充実を図る。	(カ) 専門看護師教育課程基準の変更に伴う授業科目の追加により、本研究科の専門看護師コースの教育課程の充実を図る。	充実期待 質の高い看護を提供するための知識や技術を備えた専門看護師は今後ますます必要となる。	専門看護師課程の受験者数を確保するよう努力されたい。									
12	(ア) オープンキャンパス、大学ホームページ、教員の出張方式による大学説明会、在学生による母校訪問、大学案内等の刊行等を継続実施し、自己点検を行いつつより良いあり方を目指す。	(イ) 広報活動対策会議の方針に基づき、オープンキャンパス等広報に関して検討し、中学生、高校生及び保護者、教員への理解度が高まるように、出張式大学説明会を継続実施した。 <table border="1" data-bbox="573 611 1099 892"> <thead> <tr> <th>内 容</th> <th>開催日</th> <th>参加者数等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>オープンキャンパス</td> <td>平成 25. 8. 4～8. 5</td> <td>822 名 (H24 年度 778 名)</td> </tr> <tr> <td>出張式大学説明会</td> <td>平成 25. 4 月～平成 26. 3 月、36 件 (高校 22 校・岐阜県看護協会等)</td> <td>680 名 (H24 年度 543 名)</td> </tr> </tbody> </table> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【ヒアリングによる補足事項】 オープンキャンパスについては、予備校へのチラシの送付や業者が主催するガイダンスで参加者への周知を行っている。平成 25 年度は前年の反省点を元に、当日のプログラムや送迎バスの見直しを行った。 大学説明会はオープンキャンパスへの参加の難しい遠方の高校に優先して出張するとともに高校側の開催意図を把握し、期待される説明ができるよう努めている。</p> </div>	内 容	開催日	参加者数等	オープンキャンパス	平成 25. 8. 4～8. 5	822 名 (H24 年度 778 名)	出張式大学説明会	平成 25. 4 月～平成 26. 3 月、36 件 (高校 22 校・岐阜県看護協会等)	680 名 (H24 年度 543 名)	特筆すべき取組・充実期待 オープンキャンパス、出張式大学説明会ともに参加者数が前年を上回っており評価できる。 映像で伝えられる大学紹介のDVDを作製し各高校に配布するというのも有効な手段である。	オープンキャンパス等への参加者が前年を上回っていることは評価できるうえ、大学の知名度も上がっていると思われる。 大学の広報について、若干経費はかかるが大学紹介のDVDを作製し各高校に配布するという方法も検討されたい。
内 容	開催日	参加者数等											
オープンキャンパス	平成 25. 8. 4～8. 5	822 名 (H24 年度 778 名)											
出張式大学説明会	平成 25. 4 月～平成 26. 3 月、36 件 (高校 22 校・岐阜県看護協会等)	680 名 (H24 年度 543 名)											

通し 番号	年 度 計 画	業務の実績・法人の自己評価	論 点	検 証 ・ 確 認 (案)						
13	(イ) 県内ニーズに対応した博士前期課程の志願者を確保するための方法を充実させることを継続する。 (ウ) 専門職としての能力向上の一環として大学院での学修が認識されるように、同窓会等と協力して大学院進学を働きかける。	(イ) 「岐阜県看護実践研究交流集会」及び本学主催の「共同研究報告と討論の会」において、本学の生涯学習支援事業を説明し活用を促した。また、卒業生・修了者の就業が多い病院の看護部との「人材育成に関する情報交換会」、県主催の各種研修会にて、大学院での学修を勧めた。 (ウ) 「看護実践を語る会」を7月、11月に実施し、同窓会と協力して、卒業生の交流を図るとともに大学院での学修について情報提供を行った。	充実期待 集会や研修会に参加する医療機関のみならず、さらに幅広い医療機関の看護師に大学院への進学を働きかけていく必要がある。	集会や研修会でのPRのみならず、県内医療機関へのパンフレットの配布など様々な方策により大学院での学修をPRしていくべきである。						
17	(オ) 平成25年度の学生生活実態調査を行い、学修環境及び学生生活について検討する。	(オ) 学生生活実態調査を実施し、その結果を教務委員会及び学生生活委員会で検討し、さらなる学習環境整備に関する課題を整理した。具体的には、学生自習室を全面的に改装し、机や椅子の新規配備、個別学修ブースの設置等を実施した結果、利用者が増加した。 【ヒアリングによる補足事項】 自習室利用者について、平成24年度は平均7人程度であったが、平成25年度の自習室改修後は平均21人と約3倍となった。	特筆すべき取組 自習室の改装により約3倍も利用者が増えており、学生の主体的な学修を促していることが評価できる。今後も学生の要望に応じた学習環境の整備を望む。	一般的に大学生の学習時間の減少が問題となっている中、自習室の利用者の増加は評価できる。						
20	(イ) 大学独自の授業料減免制度を継続し、さらに奨学金制度の検討を開始する。	(イ) 大学独自の授業料免除制度に基づき、授業料減免判定会議を開催し、経済面の支援を行った。 <table border="1" data-bbox="573 1145 1048 1265"> <thead> <tr> <th>セメスター</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成25年度前期</td> <td>全額3人、半額2人</td> </tr> <tr> <td>平成25年度後期</td> <td>全額3人、半額1人</td> </tr> </tbody> </table> また、大学独自の奨学金制度の新設を検討した。 【ヒアリングによる補足事項】 授業料減免の期間は半年～1年である	セメスター	人数	平成25年度前期	全額3人、半額2人	平成25年度後期	全額3人、半額1人	充実期待 早急に独自の奨学金の設置を望む。	早急に独自の奨学金の設置を望む。
セメスター	人数									
平成25年度前期	全額3人、半額2人									
平成25年度後期	全額3人、半額1人									

通し 番号	年 度 計 画	業務の実績・法人の自己評価	論 点	検 証 ・ 確 認 (案)																								
28	(エ) 就職・進路対策部会は広報活動対策会議と連携を強化し、学生を支援する。	<p>(エ) 広報活動対策会議と就職・進路対策部会が連携して就職ガイダンス等を企画・実施し、学生を支援した。平成25年度の就職状況は次のとおり。</p> <p>卒業生数 78名 就職者数 74名 県内就職者数 40名 県内就職率 54.1%</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>保健師</th> <th>助産師</th> <th>看護師</th> <th>養護教諭</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>県内</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>29</td> <td>4</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>県外</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>30</td> <td>0</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>7</td> <td>4</td> <td>59</td> <td>4</td> <td>74</td> </tr> </tbody> </table>		保健師	助産師	看護師	養護教諭	計	県内	3	4	29	4	40	県外	4	0	30	0	34	計	7	4	59	4	74	<p>充実期待</p> <p>県内就職率が毎年50～60%で推移しているが、決して高いとは言えない数値である。</p>	さらなる県内就職率の向上に努められたい
	保健師	助産師	看護師	養護教諭	計																							
県内	3	4	29	4	40																							
県外	4	0	30	0	34																							
計	7	4	59	4	74																							
29	(オ) 学内LANを利用して、看護師及び保健師国家試験の過去問題を継続して提供する。	<p>(オ) 学内のどこからでも看護師・保健師国家試験WEB版を活用できるように学内LANを利用して継続して提供した。</p> <p><国家試験合格率(平成26年3月卒)></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>合格率</th> <th>全国合格率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保健師</td> <td>96.2%</td> <td>88.8%</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>98.7%</td> <td>95.2%</td> </tr> <tr> <td>助産師</td> <td>100%</td> <td>97.6%</td> </tr> </tbody> </table>		合格率	全国合格率	保健師	96.2%	88.8%	看護師	98.7%	95.2%	助産師	100%	97.6%	<p>特筆すべき取組・充実期待</p> <p>高い合格率をキープされている。 小規模大学の利点を生かした学生一人一人と向き合った教育を進めてもらいたい。</p>	看護師、保健師、助産師の国家試験合格率が全国平均を上回っているのは評価できる。ただし、不合格であった学生の十分なフォローも望む。												
	合格率	全国合格率																										
保健師	96.2%	88.8%																										
看護師	98.7%	95.2%																										
助産師	100%	97.6%																										

通し 番号	年度計画	業務の実績・法人の自己評価	論 点	検 証 ・ 確 認 (案)														
31	<p>イ 県内保健・医療・福祉施設及び教育機関の看護職との共同研究について経年的課題分析を行い、看護職者ニーズを把握して、大学が取り組むべき研究課題について検討する。</p>	<p>イ 共同研究の課題等は下記のとおり</p> <table border="1" data-bbox="631 261 1066 539"> <tr><td>慢性疾患等の看護</td><td>5題</td></tr> <tr><td>精神疾患の看護</td><td>3題</td></tr> <tr><td>在宅療養支援</td><td>1題</td></tr> <tr><td>高齢者の看護</td><td>1題</td></tr> <tr><td>育成期の看護</td><td>2題</td></tr> <tr><td>看護人材育成</td><td>5題</td></tr> <tr><td>計</td><td>17題</td></tr> </table> <p>・対象施設：49施設 ・参加看護職等：122名</p> <p>発表の場である「共同研究報告と討論の会」では発表後に現場の看護職者と教員による討議を行い、看護実践改善への意見交換を行った。慢性疾患に関する看護のあり方および看護人材育成に関するあり方についてのニーズが高いことを確認した。</p> <p>【ヒアリングによる補足事項】 長く共同研究事業をしているものに関しては、県下全体で取り組めるように看護実践研究指導事業に移行するものもある。</p>	慢性疾患等の看護	5題	精神疾患の看護	3題	在宅療養支援	1題	高齢者の看護	1題	育成期の看護	2題	看護人材育成	5題	計	17題	<p>特筆すべき取組</p> <p>共同研究は現場の看護師も非常に喜んでいる。病院としても看護師のレベルアップにつながり助かっている。ますますの活発化を期待する。</p>	<p>継続的かつ活発な共同研究活動は評価できる。</p>
慢性疾患等の看護	5題																	
精神疾患の看護	3題																	
在宅療養支援	1題																	
高齢者の看護	1題																	
育成期の看護	2題																	
看護人材育成	5題																	
計	17題																	
32	<p>ア 学会報告や学術誌の投稿実績及び内容を各領域で自己点検評価し、各領域及び教授会において研究の活性化及び内容の充実について検討する。</p> <p>イ 国際学会にて発表する等、国際的視点で研究活動を推進することを図る。</p>	<p>ア 活性化対策として、看護教育・看護実践に関する研究を学会や学術誌に報告することを教員会議等で呼びかけた。その結果、紀要第14巻1号への掲載は、巻頭言、総説1編、原著5編、研究報告5編、資料7編で総数18編と充実した。また学会誌等への論文掲載は26編、看護系学会学術集会への発表は33編（欧文発表4編）であり各領域による専門的な発表がなされた。</p> <p>イ 1名が海外研修支援事業を活用して、国際看護系学術集会への研究発表を行った(24th International Networking for Healthcare Education Conference 平成25年9月1日～9月7日 英国)。</p>	<p>特筆すべき取組・充実期待</p> <p>海外の学会、雑誌で発表することでより質の高い研究が期待できる。</p>	<p>海外で研究発表を行ったことは評価できる。さらに英語論文の海外雑誌への投稿を次のステップとされたい。</p>														

通し 番号	年度計画	業務の実績・法人の自己評価	論 点	検 証 ・ 確 認 (案)
37	ア 岐阜県内で就業している卒業生が本学諸行事に参加した場合等には、後輩への「メッセージ」記載を依頼し、在校生に本学卒業生の職場適応に関する情報提供を行い、県内就職を促進する。	ア 平成25年度は、年度当初から就職ガイダンスの日程を含め大学の就職支援スケジュールを全学生に周知した。1月に2、3年次生160名を対象に県内13医療機関就職ガイダンスを看護部長、卒業者の出席を得て行い、学生の参加者は、全体説明会143名、各施設単位の個別相談50名、卒業生との交流会38名であった。卒業生は11施設から20人の出席があり、卒業生と3年次生との交流会を行った。 また、卒後1年目交流会、2年目交流会および看護実践を語る会において卒業生による後輩へのメッセージ記載を依頼し、記載内容をオープンキャンパスおよび交流会報告書等で提示した。	特筆すべき取組 ガイダンスにおいて学生と県内医療機関で働いている卒業生との交流会を実施していることは素晴らしい。本音を語り合える交流会になることを望む。	卒業生との交流会は本音が聞けるのであれば素晴らしい機会である。
39	エ 同窓会と協働して、卒業生の看護実践を語る会の開催と充実を推進する。	エ 7月13日、11月9日に同窓会と協働で「看護実践を語る会」を開催し、卒業生延べ33名の参加があった。開催状況をホームページおよび同窓会だより（岐看の星）に掲載した。	特筆すべき取組 看護師は高い離職率が問題となっている。現役の看護師が悩み等を相談できる場を設け、離職防止につなげていることは評価できる。	同窓生とコラボした「看護実践を語る会」の開催はとても良い試みであり評価できる。
41	イ 共同研究事業と看護実践研究指導事業を継続すると同時に、各機関における看護実践研究を自律的に推進するための方策について教員及び看護職者で検討する。	イ 共同研究事業17題および看護実践研究指導事業6題を継続した。 県内の保健・医療・福祉機関の看護職者を対象に、現地における研究推進方法に関する看護実践研究指導事業を継続実施し、研修会を2回開催した。1回目は24施設から35名、2回目は22施設から32名の参加者があった。	特筆すべき取組 看護実践研究指導を通して現場の業務改善につながっている。	看護実践研究指導を通して現場の業務改善につながっている。今後も継続されることを望む。

通し 番号	年度計画	業務の実績・法人の自己評価	論 点	検 証 ・ 確 認 (案)
43	エ 本学図書館について、県内看護職の利用状況と看護職への文献ガイダンスの実施方法について、利用者の声等から利用上の課題を明確にし、学習環境の整備充実を図る。	<p>エ 文献ガイダンスの対象を、県内医療機関への支援の観点から、県内在勤者向けに継続実施した。2回の講習会を行い、延べ30名の参加があった。</p> <p>他大学や専門学校の学生など看護職者以外の一般利用者（1, 126名）の図書館利用があった。</p> <p>【ヒアリングによる補足事項】 H25年度の学外者の入館受付数は延べ6,246名だが、このうち県内看護職者（県内卒業者・修了者含む）として登録のある方は4,710名で、1日平均17.2名であった。</p> <p>県内看護職者には図書の貸出も行っており、H25年度の貸出冊数は10,188冊で、1日平均37.2冊であった。</p>	<p>特筆すべき取組</p> <p>学生のみならず、県内看護職者などにも広く図書館を利用してもらうことで県内全体の看護サービス向上につなげてもらいたい。</p>	<p>他大学や他施設の利用者が多いのは評価できる。</p>
52	ア ファカルティ・ディベロップメント活動として、学生の学士力及び主体的学修能力の育成、専門科目の教育能力向上、専門科目と専門関連科目の関連性の強化、研究倫理遵守、及び共同研究等の活性化等の研修を組織的に企画し、実施する。	<p>ア FD活動として次の企画を行い、ほぼ全職員が参加した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「文部科学省科学研究費補助金申請に向けた研修会」（8月1日、参加率91%） ・「学士課程に関する研修会：学生の主体的学修を促す教育の取り組みや工夫」（12月24日、参加率96%） ・「岐阜県看護実践研究交流会会員への研究支援の充実に向けた研修会」（3月24日、参加率98%） 	<p>特筆すべき取組</p> <p>FDへの参加率の高さは教員の意識の高さの現れである。教員から意見聴取してFDのテーマを決めるといった参加率を上げるための工夫をしていることも評価できる。</p>	<p>FDへの教員の参加率が90%以上であり、教員の意識の高さが現れており評価できる。</p>
55	ア 業務運営体制の充実を図るため、大学将来ビジョンの作成に向け検討する。	<p>ア 県内の看護系大学が増加するなど本学を取り巻く環境が変化中、本学が進むべき方向性を明確にするため、新たなビジョンの作成に着手した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護系単科大学の所在県内における競合状況の洗い出し ・方向性の視点の整理 <p>【ヒアリングによる補足事項】 平成28年度までの策定を目指している。</p>	<p>充実期待</p> <p>県内の看護系大学が増加し、学生確保等において競争が過熱していくことが予想される中、県立看護大学としての新しいビジョンの作成をいち早く進める必要がある。</p>	<p>看護系大学が増加している中、いち早く新たな大学の将来ビジョンの作成に着手しており評価できる。自学の進むべきビジョンの確立に期待したい。</p>

通し 番号	年 度 計 画	業務の実績・法人の自己評価	論 点	検 証 ・ 確 認 (案)
63	教員の勤務環境を整備する。	演習室の暖房対策として、全14室にタイルカーペットを敷設した。	充実期待 機能看護学講座の教員確保に努力されたい。	機能看護学講座の教員確保に努力されたい。
67	事務職員の適性配置に向けた検討を行う。	法人化以後の事務組織について検証し、事務改革基本方針策定に向けて事務局において検討を開始した。 ・事務組織再編 ・事務効率化 ・事務職員の適性配置	充実期待 法人の組織体系を正しく表示し、学生にとって分かりやすい組織図への見直しを期待する。	法人の組織体系を正しく表示し、学生にとって分かりやすい組織図への見直しを期待する。
70	イ プロパー職員への事務の継承が円滑にできるように、業務マニュアルの整備を継続する。	イ 職員に対して、業務マニュアルの作成の必要性を継続して呼びかけて、以下の業務マニュアルを作成した。 ・科研費年間業務マニュアル ・決算業務マニュアル ・雑誌除籍作業マニュアル ・新規雑誌登録(情報館)マニュアル 【ヒアリングによる補足事項】 職員が日々の業務を行っていく中で、本学で継続的に行われる業務で、ある程度業務が定例化しているものをマニュアル化するようにしている。	充実期待 整備する必要があるマニュアルをリストアップし、計画的に整備を進めていくことを期待する。	整備する必要があるマニュアルをリストアップし、計画的に整備を進めていくことを期待する。
71	ア 危機管理マニュアルを全学に明示する。	ア 危機管理マニュアルについては、危機管理対策会議で検討をした結果、学生への取り組みも含めたマニュアルへと拡大させることとなったため、平成26年度中の整備を目指して新たに取にかかった。	充実期待 災害はいつ起こるか分からない。早期に整備され、学生、職員に周知されることを望む。	平成26年度中の危機管理マニュアルの整備を期待したい。

通し 番号	年 度 計 画	業務の実績・法人の自己評価	論 点	検 証 ・ 確 認 (案)
77	<p>情報セキュリティポリシー及び情報セキュリティ対策基準に基づく情報セキュリティ管理を行う。 また、情報セキュリティ研修を実施する。</p>	<p>全学生及び教職員を対象とした情報セキュリティ研修を2回実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回 平成25年7月29日（月） 13:00～14:30 参加者：4年次生、教職員 約30名 ・第2回 平成25年10月1日（火） 13:00～14:30 参加者：1～3年次生、教職員 約240名 <p>情報セキュリティ対策基準については、チェックシートを集計し、現状を把握のうえ、平成26年度に実態に則した基準を策定する。</p>	<p>特筆すべき取組 自学において問題が発生する前にいち早く研修を実施していることは評価できる。</p>	<p>社会的な問題ともなっているSNSに関する研修をいち早く行っており、迅速な対応が評価できる。 研修への参加人数が多いのも評価できる。</p>
87	<p>情報公開を充実させるために、ホームページのリニューアルについて検討する。</p>	<p>ワーキンググループで構成案を作成し、各委員会等情報管理部に意見照会を行った上で、結果を構成案に反映させた。</p>	<p>特筆すべき取組・充実期待 大学ポータル（仮称）は、国公立を通じた情報発信の仕組みとして平成26年度に本格稼働することを目指し、独立行政法人大学評価・学位授与機構に設けられた準備委員会において現在審議が進められている。この大学ポータル（仮称）に向けた取り組みも充実されたい。</p>	<p>大学にとって重要な広報媒体であるホームページのリニューアルを進めていることは評価できる。 大学ポータル（仮称）への取り組みも重要である。</p>
88	<p>(1) 学術情報流通における電子化の進展に伴い、雑誌の電子ジャーナル化の推進を検討する。</p>	<p>(1) 洋雑誌の見直しとあわせて電子ジャーナル化についても教員へのアンケートを行い、図書館運営委員会で検討を行った。その結果、利用頻度が低いため、今年度は新規の電子ジャーナルへの切り替えは行わず、導入済みの電子ジャーナルの利用促進を図ったうえで新規導入を進めることとした。</p>	<p>特筆すべき取組 図書館の文献数が多く、学外者の利便性向上も図っている。</p>	<p>図書館の文献数が多く、学外者の利便性向上も図っている。</p>

通し 番号	年 度 計 画	業務の実績・法人の自己評価	論 点	検 証 ・ 確 認 (案)
91	(1) 個人情報やセキュリティについて、チェックシートによる教職員の自己点検を実施する。	<p>(1) 平成26年3月7日(金)全教職員にチェックシートを送信し、平成26年3月31日(月)チェックシートを回収した結果、高いセキュリティ意識が示された。一方、外部記録媒体(USB等)の保有が確認された。</p> <p>【ヒアリングによる補足事項】 USBは各教員が管理し、原則大学で購入したのみを使用している。学外へ持ち出す場合は必要なデータのみを持ち出すようにしている。非常勤講師にはネットワーク接続されていないパソコンでウイルスチェックを行ったうえで使用を認めている。 平成26年度中に、情報セキュリティポリシーを改正し、より厳密なUSBメモリ等外部記録媒体の管理・利用についての規定を定める予定である。 学生の倫理に関する教育については、看護実践・医療の倫理や実習先での記録類の取り扱い方、メモの取り方など隣地実習の前に事前に研修をしている。</p>	<p>充実期待</p> <p>倫理に関して、教員が当然学生は知っているだろうと考えていることでも学生は知らないことがある。しっかりと授業で教えていかなければならない。</p>	<p>教職員だけでなく、学生に対する倫理教育も今後さらに重要性を増すため、更なる努力を期待する。</p>